

特245

492

經濟漫言

神戸香川 潔



0018627000

1

0018627-000

特245-492

經濟漫言

香川 潔・著

平井印刷所 (印刷)

昭和4

ADA

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第67条の規定に基づき、平成12年3月2日
けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです

245
492

目次

一、	緒論	一
二、	邦商の同士打し不正競争	三
三、	日用品の標準化	六
四、	我國民性の最大欠陥	八
五、	國民經濟と社會政策	二
六、	適當なる津國稅	二
七、	世界資源の調査	四
八、	國民性風俗、習慣等の研究を無視して輸出の振興が果して出來やうか	一七
九、	我輸出商品の海外市場に於ける價值	一八
十、	製造業者海外視察の必要	二〇
十一、	世界經濟戰爭場裡に非常なハンデキャップ (Handicap) を與ふる我國特有の學校業	二二



十二、社會は古武士の典型的な人物を要求す……………三三

十三、貿易業務に無理解な爲政者……………三三

十四、銀行業者に對する苦言……………三四

十五、輸出業者の考試并に監督制度……………三九

十六、輸出商従業者の共済制度の施設……………三六

十七、結論……………三六

經濟漫言

神戸 香川 深

一、緒論

歐洲大戰終局と同時に世界復舊經濟戰の序幕は切つて落された。場面の進展と共に、耳にこそ聽へぬが、其砲火は我沿岸を脅かしつゝある。目にこそ見えぬ、敵の偵察機は日夜頭上に飛來し、爆撃機は斷へず我財界に爆弾を投下しつゝあるので、所々に白煙障々として火災が起り大小の會社、商店が次から次へと消えて行く。最新兵機や、空軍防備の手薄き悲しさ、武勇を以て世界に誇れる我帝國も經濟戰では恰も八方塞で敵の襲撃に任せつゝあることゝも見られる。これ果して誰の責任に歸するであらうか。然かも對内的の仕事

に從事してゐる人達は兎角不景氣を啣つてゐても、未だ國難を氣附いて居らぬ。又氣附いてゐても眞に自分の尻に火がつく迄は國難を他處事の様に考へてゐる連中が殊に「ブル」階級に多い。中には不景氣も相當長く續いたのだから大戦中の様な好景氣が近い内再來するに違いないと自分で極めこんで至極呑氣な手合もある。又來年から九星の廻り合せが良くなるから景氣もなをるだらうと云ふ様な易者めいた事を云ふてゐる愚人も少くない。又斯かる空想の許に同胞の財囊を搾取することに餘念ない連中も相應にある。但し政黨の連中にはそんな不心得な人はなからうが、そこで七千萬の大衆の大部分が國難に氣附かすして斯様に呑氣な考の持主のみでありとするならば國家の前途は洵に憂慮に堪へないのである。此處で想起されるのが東郷提督が彼の日本海々戦に「皇國の興廢此一戦にあり」と云へる信號を「三笠」の前橋に掲げた時其儘の心持で、政府が國民に臨み、且つ健全な國論を喚起す可く努力、且つ指導—小學教育より成人教育に到る迄—をなさねばならぬ。又此國難を體驗しつゝある我々將卒も今迄の行が、りを捨て、宜敷軍司令部と完全なる

聯絡を取る必要があるのではないかなどとの空想に耽りつゝ秃筆を執つて「タツ言」を書き連らねる事にした。幸に御一讀の榮を賜らば筆者望外の光榮とする所である。

二、邦商の同士打||不正競争

吾人は輸出振興を論ずる前に現在に至る迄折角努力して開拓したる市場に於ける地盤を如何にして維持して行くかと云ふことに尠からぬ苦心をして居るものである。簡単に輸出と云へば、何でもなし様に局外者が考へるかも知れぬが、假令内地商業でも商品の種類を問はず、市場を得ると云ふことは、容易でないが、殊に遠き海外市場に得意を求めるとは想像以上容易ならぬ苦勞を要すことは誰もが否定せないことであらふ。即ち斯様に努力を拂ふて建設した商賣でも勿論常に競争者として諸外國と戦はねばならぬことは已むを得ないであらうが、現在の状況では邦人間に於て同士打や不正競争が行はれ、その状態も餓虎が死屍を争ふといふ醜狀を呈して居るのである。こんな

馬鹿げた競争はとても歐米先進國では見られぬ珍現象であつて、歐米では引き合はない商賣は唯投機的思惑（スベキユレーション）でない限り、決してやらない。英國の例を引けば無手数料の商賣をする事は、眞面目な商人間には、恥と見做されてゐるのみならず、銀行業者も自衛上常に斯ることを嚴重に監視してゐて、若し商人が斯かる無意味な商賣をしてゐることが、發見されたならば、その商人に注意をなし、聞かなければ其の人には金融を計らぬことになつてゐる。然るに昔から我國の内地取引では損して得取れ等と云ひ洗足や、たらい廻しの商賣を無頓着に常習的にやつてゐる關係上、此の悪弊が外國貿易にまで、延長されて、算盤玉に乗らず、外國商人などに不審がらるることが少くない。即ち斯の如きは事業經營上の不合理といふわけで近い例を挙げれば、羽二重や絹物の取引などは、以前本邦商人が手出しをせなかつた時分には、本邦に居留の外國人が随分相當の利益（Margin）を容易に得てゐたのにかゝはらず、現在では日本有數の、しかも世界的に名を知られた大商社が平氣で倫敦や紐育で不合理極まる薄利で初めから何拾萬圓とやらを捨てる

覺悟で然も二ヶ月や三ヶ月のクレヂット（Credit）さへも與へて賣つてゐる。居留外國人に遣らして置けば得べかりし利益を全く放棄してゐるのであつて、斯の如きは貿易界では一般周知の事實である。又有力なる會社は棉糸布などを、孟買等に於て、内地で賣るよりも反つて安價に賣つてゐることも屢々見うけられる。而も其れに誰もが怪まない事實である。是等の會社の連中に云はしむれば、自分達は輸入爲替引當にやつてゐるのであるから、輸出の方では利益はごうでもよいと云ふ様なゑらそうなことを云ふてゐるけれども、云ふ通り甘く行かぬもので、ひよつとすると、世間の人達には判らぬ様な所に大きな穴があいてゐるかも知れぬから決して油斷が出来ないややかたである。と記して置く。こういった風のやり方をする大商社が始終中小の輸出業者を壓迫してゐることは大局的に見て我國運上誠に好ましからぬことである。考へられる。又我同業者間でも商賣の忌むべき横取主義が平氣で行はれて居るのが見受けられる。例へば甲の商會が新規の商品の見本を海外市場へ送りて折角注文を取れば、乙は直に其下をくゞり、甲の鼻をあかすこと位は、朝飯

前の仕事である。又乙が成功すると、丙は更にその下値を賣叩くと云ふ様な有様であるから、自然品質が粗悪となる譯であつて、それが因となりて輸出貿易をして滞滯せしむることもないとは云へぬ。其結果日本品は取扱かつても決して儲からないとして、手を引くのであつて、折角眞面目な人々の苦心努力によつて開いた市場も、自滅する様な結果を來たして、貿易の不振をかこつこととなる。そも誰の罪であらうか。前述の事情を海外要地に駐在せらるゝ商務書記官や、通信員の方々までも、能く御承知の筈であるが、何がさてこれらの方々が邦商の同士打を如何に見て居らるゝだらうかとの疑問が起るのであるが、云はゞ直接自分達に關係がないから「さはらの神にたゞりなし」で曰く「競争は此世界には到底免れぬ問題ですよ」位の處で軽く片附けて行くのであるまいかと、當業者中には慨いてゐる者もある。

三、日用品の標準化

一本邦輸出品に對する各方面よりの非難の内には、製品の不統一と云ふ事

が可なり多いのである事は先刻御承知であらう。然しこれは多く小規模の製造家が區々マチャ／＼に原料から仕上迄やり上げるのであるからやむを得ないのである。卑近な例を上げて云ふならば、吾人が家庭で用ふる飯茶碗の如き若し寸法の標準を全國的にせめて十種位に極めて仕舞ふならば如何に原價が安くなつて大衆が其恩恵を蒙むるであらうと云ふ事が想到される。我國の最高學府でも歐米の精粕ばかりなめずにチト此邊の事を研究して呉れないだらうか。其他メリヤス生地、絹棉織物、臺所器具、麥酒及清涼飲料水用製瓶、電氣、瓦斯用品、文具品、鋤鍬、工場用小道具、大工道具等の標準化を要求するもの擧げて數ふるに違がないのである。若し此標準化が實行されたならば我國の産業状態は爰に一新區畫が出來てあまり苦痛なくして小量生産から漸次大量生産に進展するの道程を作り、自然生産費が安く付くことになるから一般の生産費が著しく低下することになり、よしんば職工の賃金が多少低下しても一方に於て輸出が増加するから、別段惡影響を及ぼさない事になる。而して出來るだけ、輸出品と、内國需用品と接近せしめ輸出貿易専門になら

八
の○様○施○設○し○た○な○ら○ば○輸○出○品○の○品○質○を○低○下○す○る○事○な○く○し○て、原○價○を○著○し○く○低○下○し○自然○先○進○國○と○競○争○し○易○き○様○に○な○る○の○で○あ○る○。勿○論○此○標○準○化○が○實○行○さ○れ○た○處○で○美○術○工○藝○品○に○は○一○向○何○等○惡○影○響○が○な○い○の○み○な○ら○ず○却○つ○て○よ○い○結○果○を○見○る○か○ら○美○術○家○の○心○配○は○な○い○の○で○あ○る○。即○ち「ブル」階○級○は○身○分○相○應○に○よ○い○物○を○買○ふ○様○に○し○て○美○術○工○藝○を○奨○励○し○益○々○發○達○せ○し○む○る○様○心○掛○く○可○き○で○あ○る○。

四、我國民性の最大欠陥

現在の社會は一も金、二も金である。是は致方ないとしても我國民は兎角物資を粗末にする惡風がある。日銀の兌換券は何處に落しても誰かに拾はれて決して廢るものではないが、物資を粗末にする事、即ち利用の方法によりては再三再四使用の出来るものすらも、一回限りで捨て顧みない風が、殊に高等教育を受けた高襟者流に甚しい様で誠に困つた事である。年々人口増加と共に斯る物資の浪費者が増加して經濟上立ち行きさうな道理がない。一オンスの黄金、一反の布帛、一碗の飯も等しく神に恵まれたものであるから、

何○等○差○等○は○な○い○筈○で○あ○る○、畢○竟○需○給○の○差○か○ら○價○格○を○生○ず○る○が、此○價○格○と○的○に○な○ら○ぬ○も○の○で、凡○て○高○き○が○貴○か○ら○ず○。廉○なる○が○安○い○で○は○な○い○。震○災○の○時、貴○婦○人○が○愛○子○の○餓○を○見○る○に○堪○へ○か○ね○て、「ダイヤ」の○指○環○を○握○飯○一○ツ○と○換○へ○た○こ○と○な○ど○は○適○當○な○實○例○で、思○を○愛○に○致○す○な○ら○ば、一○本○の○燐○寸、一○枚○の○紙○片○と○雖○も、決○し○て○粗○末○に○す○べ○き○で○な○い○。小○學○兒○童○の○時○代○よ○り○し○て○鉛○筆○の○最○後○の○一○吋○ま○で○使○用○さ○せ○る○様○に○訓○練○し○て○然○か○も○世○界○中○に○自○國○製○の○鉛○筆○を○使○用○せ○し○む○る○獨○逸○人○の○努○力○に○は○敬○服○せ○ざ○る○を○得○な○い○の○で○あ○る○。又○英○國○人○は○父○親○の○古○懷○中○時○計○を○誇○顔○に○所○持○し○て○あ○る○の○も○亦○全○様○で○あ○る○。併○し○斯○る○美○風○は○勿○論○英○獨○人○の○專○有○物○で○は○な○く、我○國○に○も○あ○つ○た○筈○で○あ○る○。五○六○十○年○も○前○に○は○中○流○階○級○の○娘○の○嫁○入○に○母○親○の○裝○身○具○を○そ○の○儘○持○參○せ○し○め○た○事○も○あ○つ○た○様○で○あ○る○。其○後○西○洋○の○風○を○丸○吞○に○し○上○ス○ベリ○に○曲○解○し○た○結○果、貪○乏○の○癖○に○物○を○大○切○に○し○な○い○惡○風○が○流○行○し○て○來○た○の○で○あ○る○。此○厭○ふ○べき○風○習○は○我○國○人○の○物○資○經○濟○に○如○何○に○無○頓○着、否○無○智○で○あ○る○か○を○有○力○に○物○語○つ○て○居○る○。論○者○は○是○が○或○程○度○迄○我○國○經○濟○界○の○行○詰○の○原○因○で○あ○る○事○と○信○ず○る○の○で○あ○る○。卑○近○な○實○例○を○愛○に○二、三○舉○げ○て○見○ん○に、

米國では兎も角歐洲では絹物を大切にする事、中々日本人の想像以上である。「ブル」階級の人でなければ、絹の雨傘は使用しない位であるが我國では一介の腰辨でも絹張―我國は絹産國であるからでもあるが―を一年に一本位は平氣で御買入になる。都鄙共祭典に紅白金巾の幔幕を張らぬ所はなからう。市街の美觀を添へ眞に結構であるが、全國に積れば、随分大した金額にならう、是とても一度新調すれば、永く使へる様にして何れの祭禮にも、役立つ様にせねばならぬ。祭典ある毎に大阪に幔幕成金の出来ることは國民は擧つて恥とせねばならぬと思ふ。斯様な事で果して産業立國が實現し得られやうか。輸出振興が出来やうか。よく冷靜に考へて見て貰ひたい。殊に資源に乏しく我國に於ては國富の蓄積は金錢を大切にすると同様な考で假初にも物資を粗末にせぬ事が第一義であらねばならぬ。我國中興の英主 明治大帝 は如何にも御質素に亘らせられた。内閣より捧呈する文書の封筒さへも決して粗略に遊ばされず御製の稿紙として御使用なすつたではないか。又ワイシャツの紙函すらも、手函として御使用になつたそうである。近くは 新帝陛下も御

祖父 聖帝其儘の御生活を遊ばされ、國民に範を御示しになつて居る様に洩れ承る。思へば勿躰無い次第である。今回曠古の御大禮を記念して種々の施設が各地に行はるゝ事と思ふが、これを一新紀元として全國に涉り物資を大切にする様一般國民が心附いたならば、是に上越す記念はなかるべしと思ふ。この自覺あつてこそ、初めて生活は安定し、産業立國、輸出振興と云ふ順序になるのである。又平素この修養が出来てゐて、國家有事に際し 明治大帝の勅諭に添ひ奉り依つて以て最後の勝利が得られるのである。

五、國民經濟と社會政策

近頃の政治家は先進國の施設を兎角丸呑みにする癖がある。就中社會政策例へば工場法、勞働保險等の如き施設を次から次へとやる。それは云はゞ直接間接に我々國民の頭にかゝつて來るのである。然も不思議に勞働者の御氣嫌を取り過ぎる結果、勞働者の横行濶歩となつて、工場の製産能率は著しく減少しつゝある。然るに皮肉にも勞働爭議の本家たる歐米では反對に勞働者

が眞に目覺めて來たから、勞資の協調が圓滿に行はれ、然かも産業の合理化は日に月に實施されつゝあるから我商品は外國市場で更に一層競争に堪へられぬのが理の當然である。我商品が海外に賣れねば矢張り同胞の共喰ひとなり自然國力の消耗となるの外はないのであるから、此の點に於て若き政治家に重ねて訴へる。言ふまでもなく國家も一家も生計問題に大小の差こそあれ、道理に於ては決して變りはないのであるから他人の仕事をする様な心持即ち月給取氣分を棄て、より親切にやつて貰ひたい。今日の社會政策は或意味に於て恰度女學校の割烹科で教へてもらつたものをすぐ其儘新世帯で行ふ様なもので高くついて貧乏世帯ではとても向かぬ様な心持がする。こんな事が廻はりめぐりて商品の生産原價に影響するのであるから國民全體が深く思を此邊に致さねばならぬ。換言すれば、甲冑を附けた舊式の武士が最新の兵器や、飛行機を具へた軍隊と太刀打出來ると思ふてゐる様なものである。

六、過當なる準國稅

由來貧乏な我國民は重い國稅をも辛抱して負擔してゐるが、更に此上論者の所謂準國稅を一般國民が知らず知らず負擔させられてゐる事に氣附かねばならぬ。我國富、資源が列強に比して貧弱であるに係はらず、我利一點張の資本家は國民の財布の搾取に怠らず、必要以上の娛樂機關や遊山氣分をいやが上にも唆る郊外電鐵や、「ケーブルカー」などに投資して、年がら年中、全國に御祭氣分をたいよはしてゐる。又最近、十年計畫で六億五千萬圓の龐大な鐵道建設案を立て格別必要に迫つてゐない山間、僻地に鐵道を敷設し地方民の御機嫌許り取つてゐる。是皆永年の間に政黨政府が無謀な借金政策を踏襲して來た事が累をなしてゐるので、國民の膏血を搾る以外に、何等頭腦が働かなくなつた結果であると思ねばならぬ。此準國稅なるものは恐らく國稅の數層倍のものであらうから、今の内に何等かの制限を加ふる様にせねば、知らず知らず、國力は疲弊する結果となるので、將來累を國家に及ぼすかも知れぬのである。世界の各地に富源を有する英國や米國の如き金持ならばいざ知らず、我國の如き貧乏國が贅澤な御附合は、決して眞似る可きものではない

い。此點に心せば口先き許りの産業立國、輸出振興を叫んだ處で何になるかと云ひたくなる。

一四

七、世界資源の調査

産業立國、輸出振興と密接なる關係を有する本邦及我勢力範圍の調査は可なり行き届いてゐるが、一歩外に出れば御手が届いて居らぬ様に思はる。世界と迄及ばずとも、責めて東洋方面だけたりと調査の出來ぬものだろうか。世界最大の輸出超過國である米國は自國の現狀に甘せず、世界中の資源を間斷なく調査してゐる。政府の手で目的を達し得ない處は民間の會社や、銀行、若しくは大學等の手で調査、研究してゐる。二、三の例を舉げて見んか、某機械礦油會社の手で本邦各種の工業狀態、生産額、工人の數等を常に調査して居る。某石油會社では本邦官私鐵道の車輛數に到る迄精査が出來てゐる。又紐育某電氣會社では商賣柄本邦に於ける電氣事業や、水力電氣事業を精細に調べてゐる。又傳道會社(Missions)の手で朝鮮の産業狀態を不斷に研究してゐる。

米國は支那の資源については自國百年の大計から古物發掘等に籍口して大學教授指揮の下に、大規模の探險隊などを支那奥地到る處へ派遣して、調査模様を出版公開し、一般民衆の参考に供してゐる様である。昨今支那に於て米國が我國を向ふに廻はし、メートルを上げてゐるのも、畢竟是等調査の結果に外ならない譯である。又猶太系の米人を利用して、バレスタイン附近に勢力を扶殖しつゝ手を延して居る。此種の調査よりして、米國は土耳其政府から礦山採掘權を獲得したので、己に其權益がメソポタミアのモースルで英國のそれと衝突し、今尙紛糾しつゝあるのである。此外新興の波斯亞(英露の勢力範圍内)に財政顧問を供給して頻りに礦山方面を調査してゐる。又メソポタミア方面の狀況を大戰終了と同時に調査し、米國の大農式機械を賣附く可く専ら努力してゐる。我國が最近條約を締結した東亞弗利加のアビシニヤ王國あたりから最上の製靴原料を見出し自國へ輸入して立派な精製品として更に海外諸國に輸出して居る。以上は主として米國だけの事を書いて見たのであるが英、獨兩國も亦東洋方面の事を熱心に研究、調査してゐる。又米國では

一五

一六
兒童の教科書までも、己に此邊の注意が行き届いて居る。つまり歐洲では
今や未調査の資源もどうにもならぬので、未だ開拓されてゐない東洋方面に、
頻りに着目研究し其勢力を維持す可く、折角努力してゐるのであるから、我
國も向後黨争に浮身をやつしたり、全士打や、共喰や、富豪の弱い者いぢめば
かりしてゐる可きでない。又幸にも今では二、三の世界的富豪が我國にも出
來たのであるから、よしんば政府に是等海外資源調査費の出處がなくとも國
家より莫大の恩惠を受けてゐる富豪が自分達の手で熱心に調査すべきである。
然らずんば、氣附く時分には、己に晩かりし由良之助ではなからうか。英、
米、獨等の先進國に於ける博物館に行つて見ると、世界の隅から隅まで不斷
の調査が如何に行き届いてゐるか、能く判るのである。又資源調査のみなら
ず心理學者や、社會學者や、親○家をして各國の民情等を如才なく視察せしめ
てゐる。本邦へ毎年やつて來る市加古大學のスタール博士(御札博士として知
られてゐる)なども云は、此種のものであるまいかと論者は見てゐる。本項
に於て今少し述べて見たいのであるが、領分外の事であるから遠慮して置く。

八、國民性、風俗、習慣等の研究を無視して

輸出の振興が果して出來やうか

歐洲に於ては英、佛、獨、露、伊、西、葡等の各國が境界を接してゐるからたとへ言
語を異にしてゐてもよく互に事情が判り、調査、教育を待たずして各國の國
民性、風俗、習慣等が能く知悉されて居るから、外交上の驅引から、商取引に到る
迄、日本人が想像する程六ヶしくないかも知れぬ、又彼等が東洋、亞弗利加
乃至南北亞米利加等に殖民地を有してゐるので、余程樂であるから通商上に
於ても無論圓滑に行くのであるが、我國は極東に位し歐米諸國や東洋各地と
は何れも數千哩(支那を除き)離れてゐる上、我國民は生れ付、出不性に出
來て居るから、取引先の國民性や、民族性には兎角暗いのである。此等のハ
ンデキャブ(Handicap)が遺憾なく我國の輸出貿易上に顯はれてゐるものである。
故に我學府に於ても東亞古代文學や、サンスクリット、佛教美術等の研究と
並行して通俗的に且通商上に立脚した常識的な研究もが目焦に迫れる緊要で

ある事を切言する次第である。

九、我輸出商品の 海外市場に於ける價值

生糸や綿糸布等の如き大量製産品を除き、普通一般の本邦製品は、内地に於てこそ關稅の厚き保護を受けてゐるから、少々品質のつまらぬものでも、威張つても居られやうが、一步海外に輸出しやうと思ふても、海外競争品と、眞面目に太刀打ちの出来る商品が、漸次減退して今では少くなつて來てゐる。それは我國の製造業者に新意匠の考案力に乏いからである。英國や獨逸の製造家は高級品から下級品に到る迄、常に品質の改良や、新規の意匠考案を、絶え間なくやつて、値段を維持することゝ全時に、海外顧客の買氣を絶えずそゝる様な品物を、製作することに腐心してゐる。實に偉なりと云はなければならぬ。所が一方我製品は、十年一日更に改善進歩の跡を認められないのであつて、只管海外の製品を模倣することのみに没頭し、我の一步進まんと

する中に、彼は十歩を行くと云ふ有様で、漸次其の距離は遠くなるのである。其れだから精々印度や、亞弗利加邊の程度の低い人種を相手とするに止まつて、富の程度の高い優等人種の間顧客を得られないのは、偶然ではないのである。此の點には吾人が注意する必要がある。即優等人種にも、下級人種にも、兩様に顧客を得る事が必要であつて、然かも外國人は既にその點に着目して先きに失敬して居るから、深く考へねばならぬ。偶々我が製造品を優良國が買つてくれれば、其れは自國製造不引合の品を僅に採用する位のもので、情ない事である。又中には莫大小製品の如く多少年々輸出が増加して來たものがないではないが、之等も何等特色のない品物であるから、輸入國側で自國製品保護の目的で、一割か、二割の僅の關稅増加でもしたならば、我輸出は止まるのである。即ち先方で譯もなく出來ると云ふ品物であると云ふ弱點があつて、到底優良なる外國品が我關稅の堤を越えて輸入されるものは同一に論せられない。此莫大小にも矢張り、製造家全士で、盛に無謀な競争をした結果折角今日迄市場を開拓した輸出商の功勞を無視し、其の手を省

き、直接需要地へ、自己の商標で輸出する計畫らしいが、こうなつては、莫大
 小製品を恰も綿糸布の如き標準發表相場で賣買され、需要地の商人達と力の
 入れ甲斐なくなり、懸て日本の品物に愛想をつかす時機が來ることとなる。
 こんな無謀なことを、計畫して市場を破壊するよりも、製造家は製造家らし
 く自己の自分をつくし、今より以上に工場の能率を増加し、製品や販賣の方
 法を改善し、全時に輸出業者の力を借りる方が賢明な策である、即ち工業經
 營家と、商業家とは自ら専門が違ふのであつて、兩道を取る事が反つて工業
 家に思惑心を助長せしめ、失敗の一因とならぬとは申されぬ、昔から名工は
 商賣なんかするものはない。

十、製造業者海外視察の必要

從來政府萬能主義的過信の下に、明治の初年以來今日に到る迄引續き役人
 や技師や工業學校や大學の教授たちを歐米に派遣して居るが、それよりも一
 層必要なのは我國製造業者の、海外渡航を奨励し、各國の優秀工藝品を研究

せしめたならば、自己の遜色を痛切に自覺せしむるの結果となると思ふ。此
 の重要な見學を怠りながら、商人も工業家も唯々目前の競争にのみ没頭し
 つゝ日も亦足らず、局面の展開を無意味に計つてもそれが果して成功すべき
 か否やは、論を俣たない次第である、即ち吾人の希望するのは、縁の遠い學者
 や、役人よりも、直接製造に當る實際家の渡航を希望し、其の奨励に若干の國
 費を吝まぬやうにするのである。

十一、世界經濟戰爭場裡に非常なハンデキャップ

(Handicap) を與ふる我國特有の學校業

農家の純朴な青年に高等教育を施し都會に走らしめ型の如き「サラリーマ
 ン」を粗製濫造する學校業が如何に我國の經濟界に悪影響を及ぼしつゝある
 ことに想到せねばならぬ。此故に兎角鋤鎌を取る働き手が缺乏して農家が振
 はぬ状態に陥りつゝあるは困つたことである。外國人は此珍現象を何と見る
 だらうか。

十二、社會は古武士の典形的な人物を要求す

現下の行詰は人物教育を等閑にして唯専門學校や大學を亂設して夫で國家が隆昌になると思ひ込んだ爲政治家の大失策である。數よりも質、識よりも徳を基礎とせねばならぬ。然かも我等商人側の注文は益々複雑な世の中に處して適當な誤まらざる判断(Judgment)を下し、金錢の爲に志を曲げざる士魂商才の人を社會に送り出す事を目的とせねばならぬ。商科大學や高等商業で學校の課程を卒ればそれで最新(Upto date)の知識を有するとのみ思はせる様な現在の高等商業教育は甚だ面白くない。寧ろ學校の數を尠くして、教授の人物を精選し、此の大切な仕事を托した方がいくらかも知れない。爰に於て論者をして云はしむれば何等豫備智識なき青年に無闇矢鱈に卒業後直ぐ役に立たせる教育を施すことを止め、専ら崇高な人格者を養成する様にした方がよいと思ふ、而して此教育方針で出来上つた人物は決して崩れぬから社會に出て害毒を流す様なことはない。又實地商賣に必要な學問は學校を出てから

後五年か十年間に充分本人の志次第で容易に出来るのである。世の中はまことに不思議なもので、近來不景氣で、兎角學校の卒業生が賣れぬと云ふが、人格優れた常識の持主であれば社會は待ち受けて居るのである。此事實は學校の方でも夙に御承知であるべき筈である。彼幕末に吉田松蔭先生の松下村塾から出た若き志士達が維新の大業に馳せ參じて偉功を樹てた事や、福澤先生の門下から我國の財界に最高權威の人々を出したことは此受難時代に吾人は思ひ出さねばならぬ事ではなからうか。

要するに我經濟界は「識」よりも寧ろ「智徳」の人を多く要するのであると思ふ。現時の如く唯恩給目當のさもしい根性の人達では達見の出さうな筈がない。これでは國が維持困難である。

十三、貿易業務に無理解な爲政者

我國の爲政者は對外貿易業に對して何等理解がない。それ等の多くは帝大出身の人達やら、六ヶ敷い高等文官試験をパス(Pass)したチャキ／＼連中であ

るけれども對外貿易はおろか、内地の商賣をも理解し得ないで、彼等に接近する一部の利權屋連中の口先許の話を聴き、其れに「ノートブック」仕込の智識で、やつこらさと研究して行くのであるから何等適當な施設が出来ないのが寧ろ當然である。勿論大官連中も近頃は大分覺醒して商都「大阪」に御高説拜聽に遣つて來る様になつて來たが、所謂實業家なるものも、拔目がないから、自分達の懐と相談して諮問に應ずるから、どちらでも善い加減のものである。こんな事で何にもならぬ。論者は商務院とか、貿易省とか云ふものを創設して、此所へペンや算盤を武器とする至誠無二の人達を集め、此行詰りたる輸出貿易の局面を展開したいと思ふ。

十四、銀行業者に對する苦言

歐洲大戰は幸か不幸か我國に火事泥的利得を行はせしめた、ところが得たものは畢竟「黄金の花」であつて休戦以來打ち續く不景氣風で幾んど散り去つて仕舞ふた。是れ即黄金を引留める生産的事業(Lucrative Enterprise)が我國に缺

如していたことが最大の原因であらねばならぬ。若しそれ英國が獨逸から獲得した東亞弗利加の委任統治領や、波斯より獲得したした英國の寶庫として知られてゐる英波石油會社の油田權益等の無限の資限を得たるに比してその差如何ばかりやと洵に長大息をせざるを得ざる次第である。何故かと云ふと我國の切り詰めた世帯に思ひがけない大金が這入つたので戦後に來るべき經濟的世界戦争をも何等考慮に置かずして有張天となつたので、一朝休戦の聲を聞くや我財界は空氣の抜けた護謨球の如くに全く緊張力がなくなつて仕舞ふた。

此時に當り天が降せる鐵鎚、は吾人の記憶に今尙新たなる關東大震災であつたのである。實にあの震災の爲に蒙つた損害は金に見積り京濱兩市だけで百億圓の巨額に上ぼつた。此百億圓の内には取り返しのつかぬ名畫、珍什、骨董もあつたらう、待合や、妾宅や、其他相等不生産的の財産もあつたらうけれど、少くも二三十億圓が商品、什器、住宅、店舗、工場等の純生産的資産と見做されるべきものが一朝唯の灰燼に歸して仕舞ふたのである。そこで

結局銀行の損失に歸したものが果して如何程あつたらうかと云ふと確に十億圓は下らなかつたものと見られてゐた、またその他に地震前に大正九年の大恐慌以來の貸倒れとなつて何處かへ隕滅してしまつたものが數億の巨額に上つて居た筈である。然るに世間に顯はれてゐるのは震災手形補償法の下に、國庫の負擔に歸したものは、臺銀の損失とを合算して二億圓余に過ぎない。是に回収の見込ある特融を勘定に入れた處で、僅々十億圓を少く突破する位であらう。そこで論者は何處かに隠れて居る大穴ある筈と思ふのである。然るに昨年の財界の大地震以來全國の銀行預金の五割が、群衆心理に支配されて五六軒の大銀行に集まつて仕舞つて實際生産的に金の入用な處に、金がなくなつた。近來金利の著數低下は現實に此の事實を證據立て、居り、中小工業者は一向其恩恵に浴してゐない。何故かと云ふに大銀行は實際中小工業業者に對して目ばしき金融を計つて居ないからである。是が今日一般の商業殊に輸出貿易に可なり大なる悪影響を及ぼしてゐるのである。有體に云へば、大銀行としては、製糸や、紡績や水力電氣を除き、自衛上「デパート」や政黨

背景のバス會社や、遊覽電車や、現在の東京に左程必要でない地下鐵道の如き、事ろ對外的に正貨吸收力のなき事業を事實輸出商工業より重く見て居るのであらう、けれど其邊の見解に大變な軒輊が生ずるのである。

輸出業は何と云つても、我國に正貨の吸收、即ち我國の受取勘定をコントロールする機關であるから、莫大な資金を抱擁する大銀行は、國家の前途を少しは考へて、是等生産的事業を助くる覺悟をせねばならぬかと思ふ。現今の如く唯目先の勘定許りで、資金を運轉して居ると、結局却而損をするのであるまいか。最近某大銀行が大阪市債七千萬圓を單獨に引受けたことを自慢してゐるけれども、論者をして云はしむれば、金の遺囑に困つた結果としか見へぬ。それよりも一般の商工業殊に輸出商工業界を早く復活させるのが國家繁榮の近道であると思ふ。要するに銀行は好況時代に持つて居た樂天主義な考も間違つて居たのであるが、又今日の整理時代に持つてゐる様な極端な警戒も誤つてゐる。とんと中庸を失つて居る。實にこの警戒こそ我國の經濟界を到頭萎縮せしめてしまつたので、此上斯の如き好ましからざる状態が

つゝかば、輸出製造工業は必然の結果として頓挫するより外に途がない。其曉は今日以上輸出のバランスが取れなくなつて仕拂ひ勘定のみとなり、正貨の輸出が解禁された後、數年ならずして日本としての「不渡」を演出せねばならぬ破目になるかも知れない。であるから早く目覺めて眞の共存、共榮を計る可く深慮を回らさねばなぬ秋である。論者は憂國の志に充ちてゐるから余り穿ち過ぎた議論であるかも知れぬが、我國銀行家の反省を促がす次第である。「尙申添へて置きたい事がある、彼の獨亞銀行(Deutsch-Asiatische Bank)が戦前、本邦に支店を開設した時、態々重役 M. W. Kohen 氏(元イリス商會出資社員)が來朝して、横濱、神戸の支店長に永く日本に在住して日獨貿易に經驗のある人達を、夫々要所に任命した事を記憶して居る。其が爲、全行の設立後間もなく異常の發展活躍を見たのである。これから推して今後我國の銀行も重役席に商賣、特に外國貿易に經驗のある人が、二三人居た方が、銀行の爲にも、又貿易業者の爲にも便利であつて、失敗を未然に防止し得らるゝだらうと思ひ、且つ信するのである。

十五、輸出業者の考試并に監督制度

大切なる我輸出貿易の進展を計り販路を擴張する上に於て、輸出業者は常に尠なからざる努力を拂ひつゝある、しかも其報酬としては一同胞が内地事業により收得してゐる利益に比し一幾んど何等收支償はさる様な薄利で従事しつゝある勞苦を政府も亦認めねばならぬ。我輸出品は歐洲のそれに比し品質の點に於ても技巧の點に於ても、決して優れて居らぬ事は周知の事實である。其上大部分は信用狀なしに D/P & D/A で賣るのは並大低の勞苦ではないのである。若し夫れ見本を發送し注文を取り是を積送り手形の決済を完了する迄には、東洋市場(支那を除く)などは注文引受後、約五六ヶ月を要し、歐洲や南、東亞弗利加方面であれば更に二ヶ月位は余計にかゝるものと見ねばならぬ。更に其後に品質の苦情や値引が來る事は決して稀ではない。そして激甚な競争の爲に極めて少額の注文でも、電信の交換を要し、(然も電信料は注文

の金高と商品の種類により等差があつて製品原價の1/4%より1%乃至2%もかゝるのである。其外、商談不成立の無駄電をも見込ねばならぬ。又内地取引は事情を異にし、數千哩離れた土地の需要、供給、季節等の關係を知悉せなければならず、又夫に積出先の法律、習慣等に通じてゐなければならぬ。輸出貿易は斯様に手数のかゝる割合に引き合はないから、當業者の多くは輸入を兼業して辛ふじて收支償ふ様な、みじめな有様である。即ち前述の全士打が主として因をなして居る事が争はれない事實である。それで政府は重要輸出商品の或るものに對し工業組合や、輸出組合等の制度で此の行詰まれる問題を解決し様として折角努力して居るが、是亦今日迄の経過によれば政府當局が期待して居た様な著敷効果がなく、且つ製造業者の利益が増進されて、海外競争上有利に展開しつゝあることも聞かぬ。のみならず兎角煩雜な手数がかゝり製産原價を高めつゝある事は争はれない。併し現在の己に出来上りたる諸設備は差支なき限りは其儘にして置くとしても政府が工業組合をして輸出の計畫をなさしめたり、製造業者も亦品質の改良、新意匠の考案、製産原價の

低減等自家が當然なすべき幾多の任務あるを忘れ、何等特色なき、單純なる製品を頼みとし、販賣能力の減退をも犠牲にして、輸出業者の領分迄も侵さんとしつゝあるので洵に困つた事である、此點に於て歐米先進國殊に英國にありては、製造業者はロンドンの輸出商の手を経ずしては、一切外國の注文は直接受けつけない事になつて居る。又或製造業者は自家競争や全士打を避く可く、一の輸出商に製品を委託してゐるのがある。又或ものは市場の方面により夫々の輸出商に分割して委託してゐる向きもある。是等の方法により輸出商も亦比較的安安全全に取引が出来るのである。要するに競争入札式の輸出を漸次特約式に改め、製造業者は輸出業者と相提携して、國家の爲に働かねばならぬ。爰に於て、論者は今日迄我國の輸出貿易を進歩發達せしめた眞面目な輸出業者の勞苦を無視し、政府は輸出業者の意向をも斟酌せずして、唯其の周圍に蝟集する、輸出業に無經驗な製造業者の意を迎ふる事にのみ汲々として、兎角海外顧客の誤解を招き易い工業組合、旅商隊等の方法により、此の大切な問題を解決せんとするは、決して賢明にして且つ公平なる政策

と見るべきでないと思ふ。又政府は果たして組合制度により輸出を増進せんとする意志ならば竿頭一步を進め、輸出貿易の全部を露西亞の如く官業として現在貿易に従事しつゝある當業者を官吏に任命し、貿易を經營した方が遙か徹底した遣方ではあるまいか。然し、斯様な事は到底云ふべくして行はれざる空論である。論者は如何にせば全士打を最小限度に避け得んかと考ふるに、多年斯業に従事し海外と取引をなしつゝある會社や商店は皆己に輸出業者として充分資格あるものと見做すべきであるが(中には如何がはしき連中もあるが)事實我々の輸出事業に普遍的に邪魔(Hindrance)になるものは第一未だ何等輸出業務に經驗なき資本家や、製造業者などが疑はしき貿易智識で、しかも怪しげな學校英語を頼みとして、憶面もなく海外の商人に取引を申込みことである。こんな人達に限り(三)の計算や、爲替の原則は勿論商習慣等、何等の豫備智識なく、たよりになき通信係や、甚しきに至りては臨時に他店の通信係にツマミ錢で書いて貰つた手紙で先方から受け取つた碌々讀みの下らの書狀に返事をなし、海外と取引して居る向が殊に最近、大阪邊の商人、

就中製造業者の内に見うけるのである。此連中こそ最も恐る可き、無用競争の當事者と云つて敢て差支がない。或る者は間違つて、運賃抜きで、本國に電報を發したり、爲替變動に氣付かずして不法な安價で本國の注文を引受けるのみならず、注文引受後契約の履行が出来ぬ事は往々ある、こんな事が眞面目な輸出商には尠からの邪魔になるのみならず、此種の詰らぬ不正競争の爲に、正當な値段で成立した取引に對し積出前に取消や、積出後不當な値引を申込みれる事がある。斯る迷惑は恐らく何れの輸出業者も一樣に經驗せられつゝあるので、一般の輸出商では幾んど避け得られぬものとして、あきらめてゐるのであるが、論者は此點に於て、政府當局者や、輸出業者の方々と篤と御相談をしたいので、左に大體、意見を發表して見やう。

(一)そこで如何にせば此悪弊を除去し得んかと云ふて、論者は商品の検査よりも寧ろ輸出業者の検査、即其の經營者、并に従業者の資格(Qualification)を考査するのが何より近道ではないかと思ふ。勿論從來の經歷や、信用ある會社、商店は事實皆此の資格を具備するものであるが、論者は爰で云はんとする處は

俄仕掛の方法で無識の製造家が直輸出に手を出したり、タイプライター一個、ペントレー電信暗號帳一冊と何々商會 (…………… & Co.) と麗々しく印刷した書簡用紙 (Letter Form) を使用し、爲替銀行の名前すら書けない様な白面の書生連中に對し一種の繩張をする事である。又經營者や從業者の實手腕を政府の嚴重なる監督の下に考查する事が何よりの急務である。要するに不正競争は或程度までは曖昧な商工業者により行はるゝのであるから、此種の特許制度は充分効力あるものと信する次第である。若夫れ此方法が政府の採用するところとならば銀行も取引上の煩雜、危険を免るゝから無論賛成するに違ひない。斯様な制度は外國に無論ないから反對者が出るかも知れぬが、云はゞ輸出商品の検査規定も等しく日本獨特の發明であるから、敢て差支はないと信する譯である。

(二) 又從來己に營業しつゝある所謂資格を具備してゐる輸出業者の全士打を防止する目的を以て常に内外市場を視察し彼我の状況を監視すべく特別の監督官の制度を設くることも亦一法である。是が任命には宜敷貿易實務に經驗

ある人を例の特別任用令により採用すればよからうと思ふ。論者は現在の商工省通信員の制度は割合に費用がかゝり實績が擧らないから、前述の監督官の制度に代へたいのである。最後に申し添へて置きたいのは、新規開業者の内には何處かの貿易業者の店に數ヶ月勤務し、店内の秘密事項を手帳に書留め、取引の内容が判つた時分に何々商會と云ふ様な觸込で、舊儲主の取引先へ幾分下値で取引を申し込み、商賣を横取る横着者が決して少くない。よしんば斯様な詐偽的方法で一時は成功したものもあるが多くは數ヶ月ならでして失敗するのが普通の順序になつて居る、其れ丈ならばまだしも、眞面目な輸出業者に恒に非常なる損失を與ふるのである。時には此連中が不正手段により海外より信用狀を發行せしめ見本と全然異なりたる品物を積出し外國商人に非常なる損失を蒙らしむることが、珍しくない。政府の當局者はよろしく此點に注意を拂ひ、本邦商人の名聲を維持する目的を以て、斯る心得違ひな不埒な人物をあらゆる方法を以て檢舉し、國際貿易場裡から驅逐すべきである。

(三) 尙前述の方法以外に輸出業者の市場の方面 (Business Sphere) に相等の制限を加ふるも一法である、碌々手もどかぬ僻に世界到る處の市場と文通しつゝある物好な輸出業者が我國に満ちてゐる。前述の方法は現在行はれてゐる諸制度よりもより實際的であらうと思ふので特に提案する次第である。更にその詳細にわたりては論者は必要に應じ發表する用意がある。

一六、輸出商従業者の共済制度の施設

輸出業は男性的で可なり収益多き事業と一般から見られてゐる様である。それは商業學校生徒の卒業後就職志望は輸出商が可なり多いのでも判る。然し世界的經濟戦争に直面してゐる丈に其の内幕は精神的には兎も角物質的には決して世人より羨望せらる可きものではないのである。彼の廣漠無限の天然資源に恵まれてゐる米國や世界到る處に殖民地を有する大英國など、異り我國には生絲の外には工業原料として幾んど擧げて數ふるものなき程貧弱であるから輸出製品の原料は多くは海外に供給を仰いで居るものである。然か

も輸出品の意匠、技術は先進國向としては余りに貧弱である、又後進國向としては或數種の大工業製産物を除き技巧の點に於てやゝもすれば歐米先進國に壓倒されんとする傾向あるを以て、輸出貿易に従事する吾等貿易業者の苦心は一通りでないのである。實際日本に於ける貿易業者の内、實際輸出のみにて收支を償ひ得られてゐる店幾許ありやが頗る疑問である。大抵多くは輸出に於て多少の損失を見て居るので、輸入により辛ふじて收支償ふて居る様に見える事程左様に六ヶ敷いものである。政府の當局者は此事實を知らるや否や、又我國開港以來神戸、横濱兩市の居留外國輸出業者が數百軒あつたものであるが今日迄引續き營業を繼續してゐるものは僅々數軒に過ぎない、而してこれらの外商の跡を引き繼げる我國の貿易業者でも少數の政商を除けば二十年乃至は三十年間自立自營を繼續してゐるもの果して幾軒ありやの問題である。如何なる大會社、大商店と雖も閉鎖した場合に於ける従業者は誠に悲惨なもので店員解雇手當は愚か其月の月給すら事缺くのが吾人の記憶に尙新しいのである。然も貿易事務は對内的事務に比し局外者の想像し得ざる特種

の經驗と智識を要する關係上としても相當考慮を拂ふても然るべきである。論者は曩に述べたる經營者や、従業員の資格を考査する制度を設け、全士打を或程度迄輕減すると共に何等かの國家的施設の下に従業者の爲、共濟制度を設け、彼等の生活に安定を計る必要ありと認むるのである。これ軍人や官吏に恩給制度あるに比し等しく國家に奉仕する大切なる一員としては貿易業者殊に純然たる輸出業者は何等かの共濟的施設の必要なるは論なきこと、思ふ。勿論斯様な施設は歐米先進國には英國の失業保險以外に何等例がない様であるが特に我國としては、向後相當の考慮を要する事かと思ふのである。又我國家が此共濟制度を幾分でも補助するとせば其財源としては論者は對內的共喰事業に可なりの余地はある事と信するのである。要するに最も適應せる農多の基礎的施設を考ふる事なくして輸出振興を論ずるは所謂机上の空論に過ぎないものと云ふ可きである。

一七、結 論

要之、産業立國、輸出振興と云ふ問題は直接の施設や、經濟審議會を幾度開催した處で直ぐ何等効果あるものでない。よろしく論者の苦言や提案を吟味して、意のある所を一般經濟界に普及せしめ、支配階級の人達の賛成を得て、徐々に實行する様にしたならば、世の中に自らアカルミを帯びて局面は轉廻し、爰に始めて産業立國、輸出振興と云ふ美果を得る事になるだらう。種々の制度の施設よりも其機關を運用する將卒達に其人を得ず現在の如く墮落して金儲のみに腐心して居ては何にも出來ぬ。斯の如き次第であるから、上は臺閣に列する輔弼の諸公より一商店の番頭に到る迄國家に對して皆重大なる責務を感ずる様になれば實業界の淨化が自ら行はれ、爰に始めて國民の生活が安定し親切なる商品が製造業者の工場から國際貿易場裡に送り出されることはきまつてゐる。現在の様に大銀行、大會社を始めとして、有象無象の中小商工業者に到る迄、重役から社員、番頭までは小僧に到る迄全部擧げて「サラリーマン」即ち月給「ポナス」「コムミツジョン」取り根性で居ては結局何等の利益のあらう筈がない。又國家に忠實な人達は「グレシヤム」法則其

の儘に兎角落伍者となり、此經濟帝國を占領されて仕舞ふのである。今では殆ど六分迄占領されて四分丈が眞面目である、手遅れとならぬ内に何とかせなければ他日臍を噛むの時が來ぬとも限らぬ。爰に論者にとりては可成り貴重なる時間と勢力を割いて廻らぬ筆を社會の覺醒の爲に執たのである。

(をほり)

昭和四年一月二十三日印刷
昭和四年一月二十五日發行

非賣品

著作者 香川 溱
神戸市磯上通八丁目二二番屋敷

印刷者 平井 菊松
神戸市三宮町三丁目一三二番屋敷

印刷所 平井印刷所
神戸市三宮町三丁目一三二番屋敷

319
254

